



「自由研究で未来の自分を描こう」

城前 花帆

夏休みの宿題の中でも、自由研究は特別な存在です。教科書や授業の枠を超えて、自分の「知りたい!」を追求できるこの機会は、まるで宝探しのようなワクワク感に満ちています。科学の実験、歴史の探求、自然観察、ものづくりなど、テーマは無限に広がります。今回は、自由研究の魅力と、楽しく取り組むためのヒントを紹介したいと思います。

自由研究の最大の魅力は、自分の好奇心を自由に解き放てることです。普段の生活で「なぜだろう?」と思ったことをテーマに選べば、調べる過程が冒険になります。例えば、ある小学生は、毎朝食べるヨーグルトに興味を持ち、「乳酸菌はどうやってヨーグルトを作るのか」を調べました。図書館で本を借り、簡単な実験で乳酸菌の働きを観察し、家族にも試食してもらうことで、科学の楽しさに目覚めたそうです。自分の興味から始まる自由研究は、単なる宿題を超えて、人生の新しい視点を開いてくれるのです。

自由研究は、未来に役立つ力も育てます。テーマを決める際には、どんな情報が必要かを考え、図書館やインターネットで調べ物をします。実験や観察をするなら、計画を立ててデータを集め、結果を整理して結論を導き出します。この一連のプロセスは、問題解決力や論理的思考を養います。例えば、「ペットのハムスターが夜に活動する理由」を調べた子は、動物の習性を調べるだけでなく、夜間に観察を続けることで、粘り強さも学びました。さらに、研究をポスターやレポートにまとめる作業は、情報をわかりやすく伝える力を磨きます。これらのスキルは、将来の勉強や仕事でも大いに役立つでしょう。

では、自由研究を成功させるにはどうすればいいのでしょうか。まず、テーマ選びでは「自分が本当にワクワクすること」を優先しましょう。好きなアニメのキャラクターの衣装の歴史、近所の公園の昆虫の種類、家族の料理レシピのルーツなど、身近なテーマでも深めれば立派な研究になります。次に、計画を立てることが大切です。夏休みはあっという間に過ぎるので、いつまでに何を終わらせるかをカレンダーに書き込むと安心です。例えば、1週間で資料を集め、2週間目に実験や観察を行い、最後の1週間でまとめるとスムーズです。最後に、失敗を恐れないこと。ある子は、シャボン玉の強さを調べる実験で、思ったような結果が出ませんでした。でも、失敗の原因を考え、試行錯誤の過程をまとめたことで、「失敗も学び」という素晴らしい研究になりました。

自由研究は、自分の可能性を発見する作業の一つではないかと私は考えます。小さな疑問から大きな発見が生まれることもあります。完璧を目指さず、楽しみながら研究を行うことができるのも、夏休みの自由研究の利点です。宿題という考え方よりも、好きなこと・気になることについてより深く知る絶好のチャンスと思って取り組んでほしいです。

9月行事予定

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1 月 避難訓練 | 12 金 視力検査 児童会⑥ |
| 2 火 つどい八雲 (3・4年) | |
| 3 水 4時間授業 (給食あり) | 17 水 5時間授業 |
| 4 木 宿泊研修① (5年) | 18 木 学習参観 (5時間目) |
| 5 金 宿泊研修② (5年) | PTA 読み聞かせ会 |
| 9 火 4時間授業 由追神社祭典① | 19 金 クラブ④ 全校集会 |
| 10 水 5時間授業 由追神社祭典② | 25 木 つどい八雲 成果交流会 |
| 11 木 二計測 | 26 金 宿泊研修 事後学習 |

長い夏休みを終え みんな元気に登校しました

30 日間の夏休みを終え、学校に子どもたちの元気な声が戻ってきました。久しぶりに顔を合わせた友達との再会を喜び合い、学校には笑顔があふれています。休み中に体験したことや家族との思い出を、目を輝かせながら話してくれる姿から、充実した夏休みだったことが伝わってきます。一方で、久しぶりの早起きや勉強に、少しずつリズムを取り戻している様子も見られます。

秋には学習発表会や渡島複式教育研究大会を控える等、子どもたちの成長を感じられる行事が盛りだくさんです。日々の学習や生活を大切にしながら、一人ひとりが自分の力を発揮できるよう、支援してまいります。

ご家庭でも、健康管理や生活リズムの調整を引き続きお願いいたします。



夏休み中の7月30日、ロシア・カムチャツカ半島沖地震による津波警報の発表と「避難指示」により、本校も指定避難所として開設されました。多くの住民の方が避難され、学校にも緊張が走る時間となりました。幸いにも、避難された方々に怪我をされた方もなく、大きな混乱はありませんでしたが、改めて災害への備えの大切さを実感する機会となりました。ご協力くださった地域の皆様・保護者の皆様、避難所対応に尽力された関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

今回の経験を踏まえ、今後の防災教育や避難訓練のあり方についても、見直し・強化していきたいと考えています。子どもたちが安心・安全に過ごせるよう、引き続き地域や家庭とも連携を深めてまいります。

最後になりますが、ちょっといい話をご紹介します。避難中、中学生が自主的に水の補給や足りない人がいないかの確認作業をしてくれました。その姿を見た小学生も一緒になってお手伝いをしてくれました。お手伝いの輪が自然と広がり、緊張の中にも優しい時間が流れました。



日本教育公務員弘済会より スクールアシストパックが贈呈されました

27日（水）、日本教育公務員弘済会によるスクールアシストパックの贈呈式が行われました。今回、教育文化事業の助成事業に応募したところ、熱中症応急セットが本校に寄贈されることとなり、北海道支部の参事 嶋田 聡 様から、本校児童会に贈呈書が手渡されました。

児童代表として贈呈書を受け取った、児童会長の4年湊 花楓さんは、「アシストパックがあれば、暑さから自分の身体を守ることができます。これから大事に使って、みんなで元気に学校生活を過ごしたいです。優しい気持ちを届けてくださりありがとうございました。」と立派なお礼のあいさつを述べました。これからまだまだ暑い日が続きます。子どもたちが熱中症に対する予防と危機意識が高められるよう、活用をとおして指導をしてまいります。

